第15号

「めぐみちゃんのまちづくりだより」

～　市民と農家の宝もの　けやきの里のめぐみです　～

西東京市では、農業者と市民が相互理解を深め、都市の農業・農地が持つ多面的な機能を発揮させることにより、農地の保全を図っていくことを目的に、「都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。事業の一環として整備された『農のアトリエ「蔵の里」』を活用して、市内の農業を伝える課外授業『西東京市の農業《知っとくスクール》』を実施しました。

事業のねらい

昔の農の風景や農具の展示空間、交流スペース、情報交換、勉強会等の場として活用する。

事業の効果

市民がまちの農業を知り、「農」をテーマとした交流拠点となる。

２月７日（金）に碧山小学校３年生約100名を迎えて《知っとくスクール》を実施しました。今回の《知っとくスクール》では、市内で農業を営んでいる農家の矢ヶ崎さんに「農家のしごと」、農のアトリエ「蔵の里」農園主の冨岡さんに「農作業で使われている機械」についてお話をしていただきました。

01 農家の一日

今回講師をしてくださった矢ヶ崎さんは、南町で野菜の生産を行っている農家さんです。まず始めに「農家の一日」として、矢ヶ崎さんの日常についてお話していただきました。

矢ヶ崎さんの一日のスケジュールは、早朝4時30分に起床して、出荷作業を終え、その後は翌日の出荷に備えて、収穫や結束などの準備をします。午後は、畑で肥培管理等の作業を行います。夕食後は、出荷した作物の伝票作成等の事務作業をして、深夜に就寝するそうです。

子どもたちは、矢ヶ崎さんの一日の仕事の説明を聞いて、農家の仕事の大変さや、一日で行う作業の多さに驚いていました。

ルッコラと春菊は、ビニールハウスで育てています。

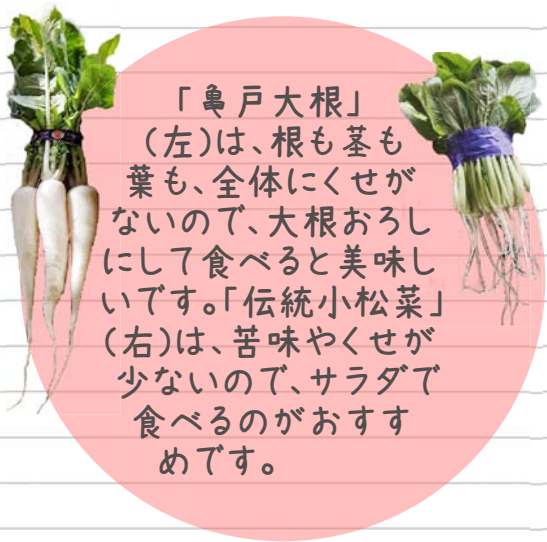
02 農家の一年

続いて、農家の一年について説明をしていただきました。

矢ヶ崎さんの畑では、ルッコラ、春菊、エダマメやスナップエンドウ等の野菜を栽培しています。作物を育てていない畑では、次に作る作物のために、畑を消毒したり、肥料をまいたりしています。

年間を通して栽培しているルッコラ等の野菜は、収穫時期を見越して、季節に応じて種蒔の間隔を調整しているそうで、栽培農家ならではの経験に基づく工夫を知ることができました。

また、「江戸東京野菜」という、江戸時代に現在の東京周辺で栽培され、消費されていた、地域とのつながりが深い野菜の栽培もしています。年間で10種類以上栽培しているそうです。「伝統小松菜」は別名「後関晩生小松菜（ごせきばんせいこまつな）」とも呼ばれ、「後関（ごせき）」さんという農家が作った品種だそうです。また、市場でよく見かける小松菜は中国野菜との交配種で、「伝統小松菜」とは違うことも教えていただきました。



「亀戸大根」（左）は、根も茎も葉も、全体にくせがないので、大根おろしにして食べると美味しいです。「伝統小松菜」（右）は、苦味やくせが少ないので、サラダで食べるのがおすすめです。

03 スナップエンドウの試食

農家の仕事について話を聞いた後に、矢ヶ崎さんが生産しているスナップエンドウの試食をさせてもらいました。

スナップエンドウは、秋に種を蒔き、5月頃に収穫をします。冬の寒い時期に実が凍ってしまうと、まだら模様になってしまう等の低温障害が起きることがあるので、ビニールハウスの中で暖房管理をしながら、大事に栽培をしています。

試食をさせてもらったスナップエンドウは、とても大きくて、子どもたちからは、「甘くて、シャキシャキしてとってもおいしい！」や「いつもはマヨネーズとかをつけるけど、何もつけなくても、とってもおいしい」などの声が聞かれました。

04 矢ヶ崎さんへの質問

Q 結束作業はスーパーやお店でやっているのではないんですか？

A 農家が自分で行っています。一緒に出荷する農家の皆さんと出荷調整会議を行い、出荷する野菜のサイズがばらばらにならないようにして、サイズを決めてから出荷しています。

Q 天気が悪い日は、お休みですか？

A 畑の半分はハウス栽培なので、天気が悪くても作業をしています。

Q 仕事をしていて一番楽しいことは何ですか？

A 自分で育てた野菜を、お客さんが「美味しい」と言ってくれることです。

Q 仕事の中で一番大変なことは何ですか？

A 畑に生える雑草の除草作業がとても大変です。雑草がなければ、仕事の量が半減できます。

05 農作業で使われている機械

試食の後、圃場へ見学へ行く前に、冬場の井戸水に触ってみる体験をしました。「地下水は夏は冷たく、冬は温かく感じられる」と冨岡さんから教えてもらいました。

農機具は、「トラクター」「耕耘機」「運搬車」について、実物を見ながら、どの機械がどのような用途で使われているのか、冨岡さんに解説してもらいました。普段間近で見る機会のない農機具には、迫力がありました。

最後に、冬場の畑の見学では、一見すると畑には何も作物が無いように見えますが、まだ収穫を終えていない土の中に隠れたニンジンを見せてもらいました。

そして、冨岡さんに「麦踏み」のやり方を見せてもらいました。「麦踏み」は、春先に麦の芽を踏むことで、根張りをよくすることができる大事な作業です。子どもたちも、冨岡さんの説明で納得していました。

矢ヶ崎さん、冨岡さんありがとうございました。

西東京市では、貴重な農地を残していくために、「東京都農業・農地を活かしたまちづくり事業」を活用した、「西東京市都市と農業が共生するまちづくり事業」を進めています。「農のアトリエ【蔵の里】」は、本事業の支援を受けています。

発行：西東京市
生活文化スポーツ部
産業振興課